

平成25年度「使える英語プロジェクト事業」公開授業及び研究協議会の報告書

市町村名 枚方市
 実践研究校名 樟葉小学校

【公開授業】公開日：平成25年6月19日
 対象学年：第6学年

| | |
|--|--|
| (教材・教科書名) Hi, friends! 2 Lesson3 (单元名) I can swim. | (本時の指導の目標) ・“I can... .” “Can you... .?” という表現に慣れ親しむ。 |
|--|--|

(本時の授業において工夫した点)

- ・ゲームや歌を活用して、慣れ親しむことを大切にされた。
- ・相手に伝えようとする気持ちを大切にすることで、簡単な単語とジェスチャーで表現する機会を多く取り入れた。
- ・身近な単語を用い、全員が発表や発言をする機会があるようにした。
- ・コミュニケーションをとる楽しさや自分を表現できた喜びを児童が体験することを重視した学習活動を取り入れた。

(授業を終えた教員の感想)

- ・ゲームや歌を活用することによって、英語に慣れ親しむことができた。
- ・英語での指示をもっと多くすべきであった。
- ・外国語活動の時間に、日常の教科学習では見られない元気で活発な児童の姿が見受けられた。
- ・JTEとともに、児童と楽しく学習活動を進めることができた。

【研究協議会】

| | |
|---|-----------------------------------|
| (テーマ) ・指導方法の工夫と小中連携を踏まえた「学びの連続性」について | (指導・助言者) 大阪教育大学 教授 加賀田 哲也 氏 |
|---|-----------------------------------|

(研究協議会で出された意見)

- ・ゲームの時、日本語での説明が少し多かった。簡単な英語だけで伝わるゲームでもよかったのではないかと。
- ・指導者と児童との関係性、児童と児童との関係性が確立されていた授業であった。
- ・児童の活動に対する行動観察をどのようにしていたのか。
- ・“Can you do this?” の“do” のところは、他の英語表現に置き換えて、たくさんの表現に触れさせることが必要だったのではないかと。語彙や表現の練習をもとにして、コミュニケーションが行われていくものである。

- 小学校では、教科学習との連携を大切にすべきである。また、たっぷりと聞かせることが重要である。また、担任は指導者としてのモデルであり、同時に学習者としてのモデルである。
 - 指示英語を積極的に使っていくことが、大切である。また、一語一語に気持ちを込めることが必要である。
-

(まとめ)

1. 本時の授業では、ゲームや歌を活用することによって、英語に慣れ親しむことができていたが、指示英語をもっと積極的に使っていくことが大切である。
2. 「受容」と「共感」の表現を取り入れたことで、児童間の人間関係が深められる。
3. 授業の中で、音読を重視することや、気持ちを込めて話すことが大切である。
4. “グローバルシチズン”（「地球市民」）育成のための英語教育とするために、人と人との関わり合いを大切にした「言語活動」を基にした教育活動が求められる。
5. “I”と“I”という個人が集まって“We”となる。“I”から“We”を意識することで、児童が、お互いにつながっていくような、場の設定や学習活動を考えていくことが重要である。